



お知らせ

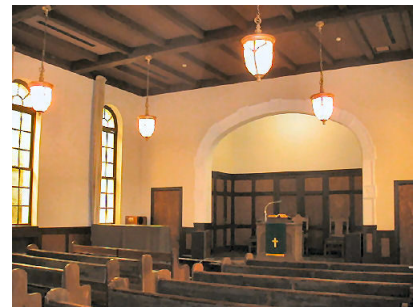
- ・下期セミナー・建物の保存を考える in Tokyo 11月8日(土) 栃木県益子
- ・ヴォーリズ六甲山荘 一般公開最終日 11月16日(日)
- ・ヴォーリズ六甲山荘 大掃除&暖炉とワインを楽しむ会 11月23日(日)
- ・名建築と音楽シリーズ 11月30日(日) 関西学院聖和キャンパス4号館(ダッドレーメモリアルチャペル)
- ・下期セミナー見学会 12月13日(土) 宝塚市雲雀丘花屋敷
- ・新年会・関西地区 1月10日(土) 草志舎
- ・新年会・関東地区 1月25日(日) 場所は未定
- ・タイ交流旅行 2月9日(月)~14日(土)

予告1

第24回・名建築と音楽シリーズ・コンサート

畑さんのつややかな歌声と春木さんの華麗なハープの音色で「歌とハープの奏でる晩秋の調べ」をお送りします。会場は六甲山荘より2歳年上のヴォーリズ建築で、かつて女子神学校のチャペルだった建物です。おごそかながらも親しみやすい建物でのコンサートをどうぞお楽しみに。

月日 **11月30日(日) 午後2時開演**
場所 関西学院大学聖和キャンパス4号館
(ダッドレーメモリアルチャペル)
出演 畑儀文(テノール歌手)
春木浩子(ハープ奏者)
入場料 一般2,500円 会員2,000円(全席自由席)
定員 80名(要予約)



詳しくは同封の案内チラシあるいはホームページをごらんください。

予告2

下期セミナー～雲雀丘花屋敷見学会

下期のセミナー<見学会シリーズ>の3回目は雲雀丘花屋敷(宝塚市)を訪問します。ここは大正時代に開発された住宅地で、当時の姿を残した住宅が数多く残っている地域です。駅の目の前からみごとな生垣のお屋敷があり、傾斜地を生かした個性的な邸がならんでいます。この地域を歩きましょう。

月日 **12月13日(土)**
集合 午後1時 雲雀丘花屋敷駅西改札口
参加費 会員1500円 一般2000円 セミナー前期全納者1000円



詳しくは同封の案内チラシあるいはホームページをごらんください。

正司邸

ご報告 畑儀文の合唱教室 9月22日(月) 10月20日(月) 草志舎

秋は音楽のシーズン、畑先生はもちろん、参加者が出演したり聴きに行くコンサートの話でもりあがりながらのレッスンでした。10月には新しい学生会員も参加して、いっそう楽しくなりました。

予告3

第9回 タイ交流旅行

アメニティ 2000 協会はタイ・チェンマイの YMCA が実施している環境農業教育プログラムに毎年 20 万円の支援を行っています。これはタイ北部の貧しい地域の小中学校を対象に、子供たちが自分たちの手で給食の食材をつくり、そのノウハウを将来自立に役立てようというプログラムです。その実施状況を視察し、現地の生徒、先生、保護者との交流をはかるために 2 月にタイを訪問します。子供たちに会いに、そしてバンコクとはちがうタイの姿を見に、一緒にでかけませんか。

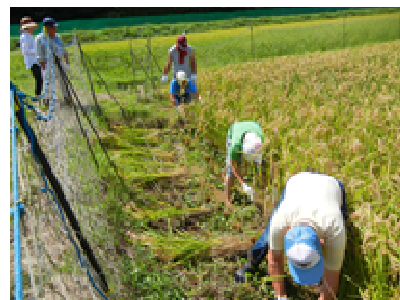
月日 2015 年 2 月 9 日 (月) 関空出発
10 日～14 日 支援校訪問、現地 YMCA との交流、観光
15 日 (日) 関空到着
宿泊 9 日 チェンマイ YMCA ホテル、10 日、11 日 チェンライ YMCA ホテル
12 日、13 日 プーチャイサイ・リゾートホテル (竹のホテル)
参加費 会員 140,000 円 (予定) 定員 10 名
申込み締切 1 月 10 日

詳しくは同封の案内チラシあるいはホームページをごらんください。



ご報告 コウノトリの郷との交流 9月7日(日) 豊岡

今年は学生会員と妹さんという若手と、ご両親という強力な助っ人が参加され、盛り上がりました。夏の不順な天候のため収穫時期には少し早かったのですが、稲は黄金色、空は青く、コウノトリも舞い、気持ちのいい一日でした。



ご報告 セミナー上期 第5回 9月27日(土) 六甲山荘 「旧小寺山荘と私」

実際に六甲山荘で生活した生き証人の森野さんのお話は当時の生活の様子、山荘に対する思い入れが語られ、アメニティ 2000 協会には保存に対する感謝の言葉を述べられました。ガイドスタッフからもいろいろ質問が飛び出しました。



ご報告 下期セミナー・近江八幡訪問 10月11日(土)

ヴォーリズ記念館館長の藪秀実さん(会員)が午前中丁寧な案内・解説してくださって、充実した一日でした。ヴォーリズ没後 80 年を記念して 1 か月にわたるイベント月間の最中で、地元の皆さんの熱気が感じられました。各会場では市民のボランティアが親切に熱心に対応してくれて、地域ぐるみの活動というのが印象深かったです。



ご報告 親子草木染教室 10月18日(土) ヴォーリズ六甲山荘

参加人数は少なかったですが、その分密な体験ができました。山荘の庭の栗のイガを使った絞り染めはそれぞれにとっても面白く仕上がって、参加者も楽しそうでした。石窯ピザもおいしく、楽しい秋の一日でした。



ご報告 手づくり工房ほりだし市 11月3日(月・祝) 草志舎

大盛況の一日でした。来場者も多く、スタッフも大勢で、にぎやかで楽しい一日でした。たくさんの方から寄せられた手作り品や寄贈品がならび、そのうえ今年には兵庫県民芸協会の作家6人が陶芸、型染、草木染の作品を出品してくださいました。若い売り子さん、若々しい売りさんが勢ぞろいで、商売繁盛！



**【コラム】 <英国ナショナル・トラストの旅～団長報告その2>
ナショナルトラストを訪ねて——羊に誘われた旅**

森 正人

<ウェールズ>

ダブリンから英国ウェールズのホリーヘッドへフェリーで移動。出国及び入国手続は不要。ヨーロッパ国間での入出国手続のメカニズムがよく分からない。以前ロンドンーパリをユーロスターで移動した時は、ロンドンでの出国手続は必要でしたが、パリでの入国手続は不要でした。乗り物の種類によるのか、何かルールがあるのでしょうか。

ランデイーノではNT所有の「Bodysgallen Hall & Spa」に宿泊。素晴らしいマナーハウスで、もてなしに感激しました。NT所有でオペレートがきちりしているホテルがあるのも、驚きでした。ダイナーも申し分なく、雰囲気、味も良かったです。朝食に触れておきますと、English Full Breakfast で野菜は自家製でした。パン等通常の朝食にソーセージ、ベーコン、目玉焼き、焼きトマト、キノコをチョイスして大皿で食します。この旅行中アイルランドでも英国でも朝は同じメニューでした。

小型バスに乗り換え、NTのTy Mawr Wybmanを見学。1500年代後半にウェールズ語訳新約聖書を完成させた英国国教教会牧師ウィリアム・モルガンの生家である。小型バスしか入れなくて冬は雪深いそう。まさに人里離れた「庵」である。15年程前から今のボランティアの青年が常駐している。ヘンリー8世が1534年に英国国教会を設立して英語の聖書を使用するようになったが、イングランドでは公の場でウェールズ語の使用を禁じ、教会でのみ使用を許可した。牧師らは庶民にキリスト教の教義とウェールズ語を伝えてきたことにより、皮肉にも絶滅の可能性があるウェールズ語が英国国教会設立により今日まで生き残る事が出来たのでした。

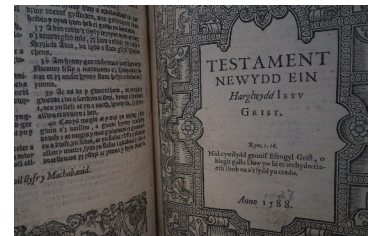
イングランドは過去ケルトの言語であるアイルランドの「ゲール語」とウェールズの「ウェールズ語」の使用を禁じてきた。現在アイルランド共和国では「ゲール語」を公用語としている。アイルランド共和国とウェールズでは道路標識等の表示が英語との二重表記です。現在、イングランド、スコットランド、ウェールズ、北アイルランドが微妙なバランスを保ちながら英国を構成しているのは興味深いことです。

<イングランド>

・NTの城、館、ホールを見学。どこも建物と庭の調和が素晴らしい。季節も良く、種々の花が満開で、English Gardenを満喫できました。

最後のバーミンガムではラムステーキを頂きました。イングランド製のジンをベースにした「ドライ・マティニー」を添えて。

機会があれば、もう一度アイルランドをゆっくりと巡りたい。レンタカーを借りて。同行の皆様には本当にお世話になりました。ありがとうございました。



ウェールズ語新約聖書

**新年会でお会いしましょう！
2015年は関東でもひらきます**

2015年の新年会は関東地区と関西地区の両方で開きます。関東地区でははじめての開催です。どちらでも好きなほうにご参加ください。あるいは両方にご参加もあり！です。

☆関西地区 **2015年1月10日(土) 正午～** 草志舎
参加費 1500円

☆関東地区 **2015年1月25日(日)**

会場は今担当会員が検討中です。場所、時間、参加費など詳細については1月号でご案内いたします。

六甲山荘～大掃除と暖炉をワインの会

8か月半の一般公開を終え、ヴォーリズ六甲山荘も冬ごもりにはいります。その前に大掃除をして、暖炉をかこんで食事会をいたします。建物もスタッフも「ご苦労さま！」と慰労の日です。山の上は寒くなっています。掃除で体を動かしてあたたまり、おいしい料理をワインであたたまりましょう。ご参加の方はご連絡ください。

日時 11月23日(日) 午前10時より

◇◆◇おしゃべりアラカルト◇◆◇

セミナー・森野郁子さん「旧小寺山荘と私」を聴講して

佐野 宣治

「柱の傷はおとしの、5月5日の背くらべ……」、昔懐かしい歌である。山荘にも柱の傷が和室の女中部屋に残っている。小寺家では毎年夏、山荘へ行った時に母上が、子供達の背を女中部屋の柱に記したと御長女の森野郁子さんは、きのうの如く述懐されている。柱の小刻みに記された沢山の鉛筆の線は、線の数だけ歴史を重ね、母上が子供の成長を喜んでいた気持ちが何十年もたった今も伝わってくるような気がする。柱には、畳から1m位の高さに、今も「郁子」と言う文字が鮮明に残っている。森野さんもこんな小さな時があったのだなと変な感心をしながら何時もガイドを行っている。

今日の講師の森野さんは、何時もの如く鬢髷（かくしゃく）とし、居間で藤の椅子に横たわる父上と読書する母上の描写を今の光景の如く、遠い昔を思い出して語っておられた。また管理人を「門番」と呼んでいたらしく、「管理人」は森野さん等子供に対して、マナーを厳しく仕付けていたので、「恐ろしさ半分、尊敬半分」の表現が、「門番」となったであろうと思われる。

建築後 80 年の六甲山荘にまつわる多くの歴史的事実が生きた言葉を通して再現された貴重なひと時であった。当時の備品は、当時の生活実態が展開できるように今もそのまま配置し、大切に見学者にも利用されている。今後もこの素晴らしい六甲山荘をこの「器」と中に詰まった「史実」をとともに後世に伝えていく必要性を改めて認識した。

森野さんは最後に、もう少し詳しいことを知りたい方は、これを読んでくださいと高々とかざしたのは、「六甲山荘物語」であった。この「書」には、森野さんからの寄稿文を掲載しており「物語」をよりリアルにしているが、編集を担当した私にとっては、森野さんから「書」に対しての推薦状を下されたように感じ、収穫の多いセミナーとなった。



講演後のティータイム

六甲山荘の出会い

中川 裕之（六甲山荘模型製作者）

私は大阪豊中で生まれ育ち、長年建築模型の仕事をしてきました。神戸阪神間はおしゃべりな建物の似合う憧れの町でした。昨年、浜大津観光協会の理事をしている知人から、東近江市五個荘金堂町まちなみ保存模型の製

作指導を頼まれ、そのおかげで五個荘に行く途中にある近江八幡の保存地区を見学する事が出来ました。「青い目の近江商人」と呼ばれた建築家ヴォーリス設計の建物を拝見しヴォーリス建築に惹かれてしまいました。

ヴォーリス設計の六甲山荘は自然の中に囲まれた唯一の山荘建築だと思います。現在は販売用マンション等の模型を製作しておりますが、マンション完売後その模型は残りません、歴史的建造物の素晴らしさを多くの方に知って貰う為に遺せる模型を作らせて頂けないかと思いいアムニティ2000協会を訪ね、清水理事長にお会いすることが出来ました。

六甲山荘は室内意匠をまとめる家具調度が適切に配置され、工夫された合理的な平面計画、緻密な収納設備など、生活本位の住居思想にもとづく住宅は当時ではすごかった事と思います。特にアイロン台は最高で、五右衛門風呂も貴重で現代っ子には是非見てほしいです。何度か六甲山荘のお庭作業をさせて頂き、清水理事長をはじめ多くの会員様一人ひとりによって守られ愛されていると実感しました。そんな六甲山荘が少し羨ましく思います。



コウノトリの郷での体験

田中 里奈

9月7日 日曜日に豊岡市のコウノトリの郷を訪れました。

午前、コウノトリ育む農法の田んぼで稲刈りを行いました。好天の稲刈り日和でしたが、前日に雨が降っていたのか田んぼが少しぬかるんでいました。裸足で泥の感触を楽しみ稲を刈りながら、かえるやイナゴ等の生き物とも触れ合いました。最近では農業機械で作業を全て行っているそうですが、今回は昔ながらの稲刈り作業を行いました。自分の手で稲刈りをしたり、自然の生き物と関わる機会は現代ではなかなか経験できないことです。大変貴重な経験をさせて頂いたと思います。そして、お昼はコウノトリ育む農法でとれたお米のおにぎりや暇さまの奥さまが獲れたての野菜で作って下さったおかずを頂きました。稲刈りで汗を流した後の昼食は格別でした。

午後、コウノトリの郷公園でガイドを受けながら元気なコウノトリの姿を堪能しました。想像以上にコウノトリは大きく、間近で見たため大迫力でした。

最後になりましたが、今回、自分の手で稲刈りを行うことで、作業の大変さを体感しました。若い世代の方々にもこのような体験をいただくことで、食物の大切さや生き物との関わりなどを知って頂きたいなと思いました。



《お薦めの本》

「大阪の近代建築と企業文化」

市川 武

私の本棚の中に、大阪の近代建築と文化と云う本を見つけた。読み直してみたら、皆に読んで頂きたいと思い、紹介します。

特定の建築家や企業がテーマではありませんが、東京の事情と違う大阪の建築事業が語られています。大大阪時代といわれる前段階の事情や風景を感じる事のできる面白い講義録ですので、気楽に読んで頂けるといい、おすすめ致します。テーマと話し手は次のようになっています。

- 第一章 落日の大阪・近代建築（橋爪紳也）
- 第二章 大阪の近代建築の成立（石田潤一郎）
- 第三章 住友の建築と近代大阪（山形政紹）
- 第四章 安井武雄の仕事——大阪ガスビルを中心に（佐野正一/栗本智代）
- 第五章 泉州の企業家と建築遺産/寺田甚与茂と谷口房蔵（酒井一光）
- 第六章 芝川家とその建築（川崎千代）

落日の大阪では、製造業だけでなく消費文化の面でも最先端をいっている時に、大阪はニューヨークに例えられた。そこに大阪らしい景観の素地があると思うんですよ。何かというと、アメリカで流行っている最先端の表現を採り入れて街並を創った。調和とか全体の統一感ということよりも、建物を建てる人の自己表現が競い合うように個性的なビルディングができてきた。これは東京とは全然違う。極端に言えば、隣に違う建物をわざと建てて、それで華やかな街並ができてきた。調和ではなく競い合う建築文化が大阪らしいですね。と橋爪紳也は語ります。

巻末には、大阪・近代建築史年表（1869～1935）と、受講生に配られたレジュメ迄ついています。これから私達の参考になる事がいっぱい入っていますので、ぜひ一読をおすすめ致します。西宮図書館にもあります。

（発行元ブレーンセンター・新なにわ塾叢書）

六甲山荘たより

9月、10月の六甲山荘

9月の特別公開は13日（土）から23日（火・祝）まで11日間でしたが、その期間中312名という大勢の来場者がありました。読売新聞や阪急・阪神の「TOKK」に掲載されたのがきいたようです。その後も効果はつづいています。10月は1日悪天候のため臨時休館しましたが、その後はスタッフが大きいそがしの日が多く、うれしい悲鳴ですね。

六甲山荘の作業

7月号でご報告した樋撤去の作業をつづけました。軒下に排水のルートをつくって砂利を敷くという重労働を皆さんががんばってくださいました。とくに玄關まわりはなかなかの風情にしあがっています。山荘においでの際はぜひごらんください。

また北側のベランダ部分は落ち葉のはいりにくい新しい樋をつけました。色も建物にマッチしてめだちません。

屋根にかかっていた枝を落とす作業もしました。これで落ち葉が屋根につもって、屋根を損なうことも減ると期待されます。その結果、北庭から建物の姿がすっきりと一望できるようになりました。 9月16日 10月21日に作業を行いました。



屋根にかかるとる枝を落とす

募金のご報告～8月9月に次の募金をいただきました。ありがとうございました。

- | | | |
|----------|-----------------|--------------------|
| * トラスト募金 | 《8月9月合計 47,000円 | 2014年度累計 303,000円》 |
| * 教育募金 | 《8月9月合計 10,000円 | 2014年度累計 40,000円》 |

近江八幡訪問 10月11日



ヴォーリスが最初に設計した家

ヴォーリス記念館



病床のヴォーリスが
外からの見舞いの声
に手を振って応える
ための小窓